

者に各回の会議事項について資料配布以上の情報共有はされているか。

答（村おこし推進課長） 民間の方に継続して出席していただくのは難しい。なるべく関わってもらいたい方を人選して出席願っている。情報共有については資料のほかに協議結果の概要書を配布している。

問 準備委員会とコアメンバー会議で予定していた協議事項の進捗について3点伺う。法人形態、定款、事務所所在地、代表者がまず一番初めに決定されるべき事項として掲げられているが、どうなっているか。12月に議会説明と予算要求という項目がある。どうなっているか。木曽町はどうか。

答（村おこし推進課長） 代表等これから本格的に議論する。確定していない。まだ固まっていないので議会説明は予定していない。予算要求もこれから急ピッチで行う。木曽町も同様である。

問 第3回設立準備委員会での資料に「ふるさと納税運営（町からの受託事業）」とあるが、これは木曽町のことか。

答（村おこし推進課長） まだ確定したものではない。王滝村では今のところ検討していない。

問 12月8日の会議までに王滝村観光総合事務所の将来のあり方について検討するようになっていたと思うが、検討結果はどういうものだったか。また、同時に木曽町観光協会も検討が行われたと思うがどうだったか。

答（村おこし推進課長） 王滝村は11月29日の理事会で協議。当面はそのままの体制で独自の事業を続け、観光局設立後も一会員として参加しながら連携して両町村の観光振興を図っていくこととなった。木曽町は旧4町村の地区ごとに話し合いが行われており、結論は出ていない。

まとめ 来年4月1日に木曽御嶽観光局がスタートすることを期待している。「なんとしてもスタートさせる」との思いが伝わって来ない。「4月1日が無理なら先送りする」という言葉の方が先に交わされている。先送りをいつまで許すのか。キチンと取り組んでいただきたい。

問 加速化交付金事業の進捗について伺いたい。

答（村おこし推進課長） ハーフマラソン事業、PR用DVD制作事業、防災・観光情報発信のための電子掲示板設置事業の3事業は完了した。



整備された清滝の木橋

インバウンドモニター、紹介本、古道整備、合宿誘致、ポータルサイト、ビジターセンターについては進めているところである。

問 7つの事業3,910万円余が観光総合事務所へ委託されている。その中で2点伺う。ハーフマラソンを滞在型のイベントにするため、どんな工夫があったのか。その成果は。モンベルフレンドエリア登録によるフレンドショップ13件の収益アップの状況は。

答（村おこし推進課長） 前夜祭を開催し、27年度93名だった宿泊者が28年度は220名になった。効果あったと思われる。モンベルフレンドショップの収益アップの効果はまだ把握していない。

まとめ ハーフマラソン事業の経費内訳はゼッケン・チップ・プログラム・賞品代である。これらは毎年必要なものであり、滞在型に即直結するとは思われない。また、前夜祭についてもハーフマラソン後の反省会で司会を当日頼んだという意見もあり、決して滞在型にする工夫があったとは思えない。補助金がついたから項目として上げ、その言い訳として「滞在型」と添

えたように思われる。次年度の予算立てについては検討いただきたい。モンベルフレンドエリア登録には毎年60万円かかる。1年ですぐ効果が上がるものとは思わないが、5年なり10年なり経った時点で費用対効果を検証すべきと思う。

問 ポータルサイト制作業務は1,000万円の事業費で9月8日にプロポーザルによって1社申し込みがあり採択されたと聞いている。前段で設立準備委員会の質問をしたが、このポータルサイト制作には設立準備委員会の方向性が定まらなと設計に取り掛かれなと思う。補助金の事業終了は3月末、リニューアルHPの公開日は4月1日となっているが、それまでに完成できるのか。

答（村おこし推進課長） 現在、宿や観光資源の基礎調査を木曽町と王滝村で行っている。素案ができたら随時、準備委員会に情報を流して進めていく。12月8日の準備委員会にはトップページの素案も提案された。今後も逐一準備委員会へ投げかけ3月31日には完成させたい。

まとめ 計画や調査を依頼して完成品を受け取る事業が目立つが、それらは今後アクションを起こすための資料に過ぎない。平成29年度以降の動きが重要になってくると思われる。そこで次の質問をする。

問 平成29年度以降の運営と予算の見通しについて伺いたい。

答（村おこし推進課長） 現在準備委員会で組織体制や業務内容について慎重に議論を重ねているところである。組織や全体像、予算の見通しは立っていない。4月1日目指して議論中である。煮詰まって公表できるようになれば議会へ示したい。観光DMOは民間が主体となって運営していくが、設立から一定期間は収益が見込めないため、行政からの財政的支援含め応援必要であることをご理解いただきたい。

問 もう12月である。来年度予算査定が始まる。この時点で見通しが立っていないのはいかがなものかと思う。事業の1つ1つを精査している時間はないかもしれないが、職員賃金と事務所経費くらいは村長に考えがあるはず、村長の腹づもりを伺いたい。

答 行政として担保していく事業と思っている。とりわけ人件費と現観光総合事務所の経費は予算考えている。加速化交付金の配分あれば財源振替もできる。ポイントは人材である。DMOが木曽郡全体に広がるべきとの筋道を見据えていくべき。このDMOに地域づ

くりがかかっているといってもいい、今後とも協力いただきたい。

まとめ 補助金があったからやっている事業ではない、補助金がなくてもやらなければならない事業である。いつものように私は焦っている、4月1日に向けてしっかり取り組んでいただきたい。

3. 王滝頂上小屋について

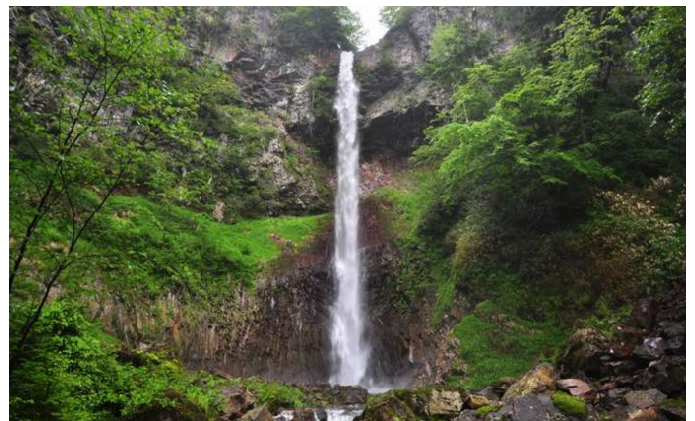
問 噴火後2年が経過する中で、まだ立入禁止区域となっているが、これまでの対応と今後について伺いたい。

答（総務課長） 現在は1km県内立入規制中である。噴火後から27年6月までそのままだったが、捜査隊に同行し目視確認し短期間で小屋閉め、片付けを行った。28年は気象庁入山の際、緊急避難所として開け、終了後閉めた。10月には山小屋建築専門家と職員で調査、今月中に結果が頂ける。今後のあり方については火山防災の専門家にアドバイスいただき進める。改修が必要な場合、経費がかかるので、県や県議会へ財政支援の陳情を行った。今後も国・県へ財政支援を要望していきたい。

百間滝へのルートについて他 吉田広史

1. 百間滝へのルートについて

問 御嶽山の噴火災害により厳しい状況はなお続いているが、新たな観光ルートとして百間滝へのルート開設について村長の考えを伺いたい。



雄大な姿を見せる百間滝

写真「滝人Collection」

<http://takibito.sakura.ne.jp/>

答（村長）百間滝へのルートについては、小林村長時代に調査をした経緯もある。その結果を見ると非常に魅力的なルートであることは確かであるが、そのルートを開設するには数億円かかる。財政的にも厳しく、また費用対効果を考えると今すぐにはできるものではない。将来的には世界水準の滞在型観光地づくりの中で木曽町とともに開発していくことが望ましい。

2. 今後の観光総合事務所の在り方について

木曽御嶽観光局が来年4月に開設される予定であるが、村観光総合事務所の在り方について村長の考えを伺いたい。

答（村長）木曽御嶽観光局が設立されても、当面は観光総合事務所を存続させていきたいという理事会の意向を受け、村としても関わっていかなければならないと考えている。

問 観光総合事務所も将来的には自立していくことが望ましいと思うが、そのことについて村長の考えを伺いたい。

答（村長）自立を目指して観光協会から観光総合事務所に形態を変えたが、観光総合事務所が単独で経営的に成り立つものだとは思っていない。木曽御嶽観光局が順調に立ち上がって行けば、事業の一部を残して主体は観光局に移っていく可能性が高い。しかしながら村としても事務所の意向に対しては積極的に支えていかなければならないと考えている。

問 先ほど、木曽御嶽観光局も収益性が高まるまでは行政が支えていかなければならないという課長答弁があったが、同じように観光総合事務所も自立を目指して収益性のある事業を展開していこうとした場合、村の支援はあるのか。

答（村おこし推進課長）事務所の方向性を伺う中で検討はしていきたいと思う。

3. 来期以降のスキー場の営業について

問 マックアースとの契約が今シーズンで終了となるが、来期以降のスキー場の営業に関して村長の考えを伺いたい。

答（村長）スキー場は村の観光産業の振興を図るうえで欠かせない施設だと思っており、可能な限



1/6～9におんたけ2240スキー場で開催された全日本学生チャンピオン大会の様子
写真「おんたけ2240ブログ」

り村としても存続を図っていく。来期以降も指定管理者による運営を行っていく方針で、現在、指定管理者募集要項の詳細部分について検討している。基本部分は5年前と大きな変更は考えていないが、主要設備の修繕費負担については、上下分離方式を考えている。

問 私もスキー場は当村になくてはならない施設だと思っているが、今年のように補助金や、貸付金が今後も発生するようでは村民のコンセンサスも得られない。契約の段階でそうしたことがないようしっかりと協議していただきたい。

小学6年生と中学3年生が 議会を傍聴しました

12月定例会に、小学6年生6名、中学3年生4名そして先生方3名が社会科の授業の一環として、議会の傍聴に来られました。代表して4名の児童生徒の感想文を次に掲載します。

<小学6年生>

- 今日は中3と小6で議会を見に行きました。議会が始まり、最初は村長さんの少しむづかしい話でした。次は三浦さんの質問タイムです。乗馬コースの話などたくさん質問をしていました。質問しているうちにどんどん白熱して行って、なんかすごかったです。村長さんも三浦さんもものすごく村のことを思っているんだなあと、うれしかったです。
- 今日は議会に行きました。最初の方は少し話がむずかしくて、わからなかったけど、途中の村長さんと三浦議員の話合いはよくわかりました。議会の流れとかどんなことを話合っているのかとか色々勉強になりました。またいきたいです。



真剣な表情で審議を見守る児童生徒たち

<中学3年生>

- ぼくはこの機会をいただいてとても勉強になりました。初めてだったので緊張しました。話を聞いていて恐いと感じましたが、話が進んでいくとそれは真剣に議論していたその場の雰囲気なんだと思いました。そんな雰囲気を感じることができて良かったです。
- 村議会を見てすごく驚きました。学校でやる生徒会の議事と違って提案したらそれにまた意見をかえすところが違うなと思いました。本物を見ることができて良かったです。実際の議会はいろんな意見と答弁がされていてそれを聞けただけでもいい経験になったと思いました。

村民との懇談会を開催しました

村民と議員との懇談会が11月21日(月)の昼と、12月14日(水)の夜に村の保健センターで開催されました。2回合わせて17名の村民の方が参加してください、活発な意見交換が行なわれました。

村内で開催されるイベントに議員も積極的に参加して盛り上げてもらいたい、村内に住みたい人達が空き家を活用したり、休耕地に家を建てられるようにしてもらいたい、一時保育や未満児保育を実施してもらいたい、等のいろいろな意見・要望が出されました。

これからも3回、4回と、このような村民と議員との

意見交換の場を設けていくことを約して終了しました。参加された村民の皆さん、大変にありがとうございました。



村民との懇談会の様子

平成28年木曽広域連合議会 第4回定例会（報告）

開催日時 11月29日（火） 14:00～

1. 議事日程

会期の決定 11/29～12/2 4日間と
するほか提出議案7件

2. 行政報告

郡内、国内情勢

下流域イベント 介護保険の現状 新焼却炉の
進捗状況 木曽寮ありかた検討委員会 消防ポン
プ自動車更新事業等について

3. 各常任委員会報告

福祉環境常任委員会調査報告 三重県、愛知県へ
の視察調査ほか

4. 一般質問

「木曽川上流のダム等の想定外の災害が発生し
た時の下流域の被災想定シミュレーションの作成
および災害発生時の周知について」（南木曽町
早川親利）

「木曽広域観光の今後の構想」（上松町 中野
隆夫）

5. 議案第28号

木曽広域連合職員の給与に関する条例の一部改正
について

人事院勧告に基づく給与表、特別給のうち勤勉手
当の改定、扶養手当の改定

6. 議案第29号

木曽広域連合副管理者の給与及び旅費に関する条
例の一部改正について

人事院勧告に基づく期末手当の改定

7. 議案第30号

一般会計補正予算（第3号）補正額178千円を追
加、総額4,135,280円にすることについて。木曽寮
の調理業務に関する債務負担行為（H29～H31 総額7
5,000千円）のほか主として人件費、財務会計シス
テム改修費、庁舎LED化に関する経費等の補正

8. 議案第31号

介護保険特別会計補正予算（第3号）補正額3,59
8千円を追加して総額4,266,010千円にすることにつ
いて。主として人件費、介護保険システム修費の増、
介護サービス費と特定入所者サービス費等予算の組
み替え

上記案件についてはいずれも原案通り可決された。

【全員協議会】

○新ごみ処理施設建設事業について

事業の進捗状況など現況報告があった。

○介護保険の現状と課題について

第6期介護保険事業計画策定時の高齢者人口の推計
事業者へのアンケート調査等について

○その他

H28年度「木曽地域災害時医療救護訓練」につい
て

9/4に南木曽町を会場として実施された訓練の報
告

松塩筑木曽老人福祉施設組合 議会11月定例会

松塩筑木曽老人福祉施設組合議会11月定例会は11
月7日に開かれ、平成27年度決算認定・条例の改正等
5件の議案すべて全会一致で認定、可決し、2件の報告
を受けた。本会議終了後には全員協議会が開かれた。

《平成27年度決算》

歳入：45億8,738万円余（前年比3.4%増）全体の91.1%
を占めるサービス収入は前年比188万円余増の41億4,554
万円余。繰入金は前年比5,624万円余増の7,700万円。
歳出：45億2,047万円余（前年比3.0%増）総務費は前年
比1億4,425万円余増の3億6,278万円余。介護業務総合支
援システムの新規導入費6,048万円・退職金手当支出の5,
128万円余の増等によるもの。

民生費は光熱費の減により、前年比1,360万円余減の3

8億1,886万円余。

実質収支は6,691万円余（52.6%増）の黒字決算となり、
単年度収支も2,307万円の黒字決算となった。

《平成28年度補正予算》

2,660万円の追加補正により補正後の予算は47億6,460万
円

歳入：前年度決算剰余金6,591万円余、サービス収入の
減3,994万円余など

歳出：財政調整基金積立金3,345万円余、民生費の減978
万円余など

○全員協議会

給与制度等検討委員会委員の指名を行った後、平成2
9～31年度実施計画の策定についてと組合施設のあり
方研究会の進捗状況について説明を受け了承した。

請願と陳情

12月定例会で審議された請願・陳情等の採択・不採択状況は下記のとおりです。

- 「地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める陳情書」（採択）

以上1件の案件を採択し、関係機関へ意見書を提出した。



ペッタン、ペッタン、みんなで楽しくお餅つき
(王滝保育園)

《 編集後記 》

クリスマスや歳末商戦がたけなわだ。ちっぽけなクッキーの一つ一つがラップされ、大げさな箱に入っている。ギフトカウンターでは更に包装、頼めば派手なりボンさえ掛けてくれる。

昨今の空家の増加は田舎ばかりではないようだが、年に数日しか帰らない住人(空家人?)が家の片付けゴミを大量に出す季節でもある。

現在建設中の木曽クリーンセンターの工事費は約30億円で各町村の負担額も半端ではない。リサイクルは結構だが、大量消費時代の私たちもそろそろ「ゴミを買わない、出さない」シンプルライフこそ心がけたいものだ。・・・(ひ)

議会日誌

- 9月**
- 13日 9月議会定例会 第1日目
 - 23日 9月議会定例会 第2日目
 - 24日 保育園運動会
 - 27日 御嶽山噴火災害犠牲者追悼式(三岳小学校)
 - 28日 例月出納検査(8月分)
 - 30日 郡議会議長会
- 10月**
- 1日 翔岳祭・小中合同音楽会(小中学校)
 - 2日 「長寿を祝う会」(村公民館)
 - 3日 愛知中部水道企業団管内議会議員との交流会(木曽駒高原ホテル)
 - 4日 郡町村議会議長会陳情(飯田国道事務所中部地方整備局)
 - 19日 第1回御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑建立実行委員会(王滝村公民館)
 - 24日 みうれ三ヶ村王滝村視察(水交園)
木曽南部土砂防災ネットワーク議員連盟総会(上松町)
 - 25日 例月出納検査(9月分)
 - 26日 県町村議長会第23回定期総会(長野市)
 - 28日 広域連合経済観光常任委員会視察(春日井市・名古屋市)
 - 29日 大府市産業文化まつり(大府市)
- 11月**
- 1日～2日 町村監査委員全国研修会(東京都)
 - 2日 木曽地域づくりシンポジウム(木曽町)
 - 9日 町村議会議長全国大会(国土交通省・財務省)
 - 13日 東郷町文化産業まつり
 - 14日 議会全員協議会
 - 19日 御嶽山火山防災学習会(木曽町)
 - 21日 第1回 村民との懇談会(村保健センター)
 - 22日 木曽広域連合議会運営委員会(木曽町)
 - 24日 例月出納検査(10月分)
 - 25日 議会運営委員会・議会全員協議会
 - 28日 御嶽山噴火災害からの復興に関する陳情(長野市)
 - 29日 木曽広域連合第4回定例議会及び全員協議会(木曽町日義)
- 12月**
- 5日 おんたけ2240スキー場安全祈願祭(おんたけ2240スキー場)
第2回御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑建立実行委員会(木曽町)
 - 6日 議会運営委員会
 - 7日～8日 木曽広域連合総務常任委員会視察研修(千葉県松戸市)
 - 9日 全員協議会
 - 13日 村議会12月定例会(開会)
 - 14日 第2回 村民との懇談会(村保健センター)